

ボール球を振ることによる打者への影響

1250545 山本壘

指導教員 林一夫

研究背景

野球界では古くから多くの定説が存在しているが、データ化が進み野球が高度化していく中でそれがアップデートされている。その中で筆者は「ボール球を振るな」という定説に疑問を抱いた。筆者の経験からは「ボール球を振る」ことには好影響と悪影響の二面性が存在していた。また選手によっても好影響を受ける選手と悪影響を受ける選手に分かれている。

研究目的

本研究はボール球を振ることによる打者への影響ならびに選手の心理的要因との関係性を明らかにする。

研究方法

福岡ソフトバンクホークスと高知工科大学野球部を対象にボール球を振った打席を抽出しボール球を振った後の打撃成績がどのように変化したのかを調べた。また高知工科大学野球部に DIPCA.3 と自身の打席内の考えに関するアンケート調査を行い、心理的要因が打撃にどのような影響をもたらしているのかを分析した。

分析結果

福岡ソフトバンクホークスと高知工科大学野球部ともにボール球を振った打席の打率の方がシーズンを通した打率よりも低く、「ボール球を振る」ことは打撃成績を下げる事が明らかになった。しかしプロとアマチュアを比較すると影響の仕方に違いがありプロの場合四死球率には変化が見られず「ボール球を振る」ことの影響がなかったが、アマチュアの場合では三振率は減少したが四死球率は増加しており、また1本も長打が出ていなかった。このことからアマチュアは自分の競技力への自信の無さから三振を恐れ当てに行く打撃スタイルに変化していることが明らかになった。

考察・結論

打率は DIPCA.3 の自己コントロール、リラックス能力の得点に影響を受けていた。一方でボール球を振った後の打席ではリラックス能力の得点が低い方が逆に良く、これはリラックス能力が低い場合練習時も緊張しており、試合など緊迫した場面でも本来の力を発揮できるのだと考えられる。また DIPCA.3 の作戦能力得点と自身の打撃スタイル（積極派・慎重派）が一致しない場合はボール球を振る確率が上がるということが明らかになった。このように打撃には競技力以外にも自身の心理的競技能力や考え方が色濃く反映されることが分かった。